

お が の 教 育



小鹿野未来塾

教育委員会だより No. 8

～大勢のみなさんに参加していただきました！～

本年度「教育スクラム日本一の町」を目指してスタートした小鹿野未来塾。漢検チャレンジに140名、英検チャレンジに101名、中学生未来塾に85名、科学不思議講座に34名など合計360名の小中学生、高校生、保護者、その他大勢の方が参加しました。

各講座では、元教員、塾講師、小鹿野高校教員の皆様に熱心にご指導していただきました。

漢検チャレンジスクール

毎月第2土曜日を中心に旧両神中学校で6回実施。親子や兄弟姉妹、また友達と一緒に参加するなど、生涯学習の一環として年齢や世代を超えて共に学んでいただきました。小鹿野高校等で実施した漢字検定に、94名の方がチャレンジしました。

参加者の声

- 漢字のおもしろさに気づくようになり意味をもっと知りたくなった。
- 漢字が苦手だったが、テストで100点をとれた。
- 勉強から何年も遠ざかり不安だったけど徐々に思い出せた。
- 親子で参加し、良い経験となった。今後もこの事業を継続して欲しい。



英検チャレンジスクール

毎月第4土曜日を中心に旧両神中学校で6回実施。目標とする級の合格を目指し、小学生から成人まで、様々な年代の方に一緒に学んでいただきました。小鹿野中学校で実施した英語検定に、41名の方がチャレンジしました。

参加者の声

- わからない所がわかるようになった。リスニングもすることができた。
- 一人では勉強できないので参加して良かったし、検定料助成もありが良かった。
- みんなのペースに合わせて講座を進めていただいたので学習しやすかった。
- 勉強をたくさんして、目標の級を受験することができて良かった。



科学不思議講座

毎月第3土曜日等に小鹿野高校で合計6回実施。小鹿野高校理科教員に、顕微鏡での観察、DNAストラップ作製、火山噴火モデル実験など、驚きや感動いっぱいの講座を実施していただき、教室は活気に満ちていました。

参加者の声

- 実験が好きなので科学不思議講座をいつも楽しみにしている。
- 池の水を顕微鏡で見たり、ビーズでDNAを作ったりしておもしろかった。
- 今の子どもは自然を身近に感じることや多様な知識を得る機会が少ないので、今後も続けて欲しい。
- 子どもと一緒に学び、親子の関係づくりにもつながった。また、参加したい。



中学生未来塾

毎月第2・4土曜日に小鹿野中学校で国語、数学、英語の3教科で実施。最終回は3月11日です。元教員、塾講師、小鹿野高校教員など中学校を応援する講師陣に、わかりやすく丁寧に指導していただきました。

参加者の声

- 勉強ができるようになったかったので参加した。予習・復習ができてきた。
- 講師にやさしく教えてもらい、学校の授業内容がわかりやすくなった。
- 1学期中間テストと比べて10点以上も点数が上がった。
- 未来塾に入って良かった。これからも未来塾を続けていきたい。



～学校・家庭・地域が一体となって、小鹿野町の未来を担う子どもたちの意欲的な学びを支援する気運を高めていきましょう！～

小鹿野未来塾は、来年度も継続して実施する予定です。多くの皆様の参加をお待ちしています！

今後の小学校の状況 ～進む少子化への対応～

1 各小学校の児童数の推移

入学予定者数は、平成 28 年 4 月 1 日現在

小鹿野町では中学校が本年度統合されましたが、年々進む出生児数の減少により、小学校において一層の小規模化が進行し、複式学級への移行状況が右表のように予想されます。

また、小鹿野小学校では、平成 33 年度より第 1・第 2 学年が 1 学級となることが予想されます。

入 学 年 度	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	現時点における見通し
小 鹿 野 小	49	53	55	41	39	30	25	H33 年度第 1・2 学年は 1 学級
長 若 小	9	10	11	8	8	8	7	H33 年度第 2・3 学年から複式
三 田 川 小	8	7	10	7	9	7	8	H30 年度第 2・3 学年から複式
両 神 小	22	20	11	8	10	11	9	H35 年度新入生が 7 人以下の場合 H36 年度から 2・3 学年は複式
合 計	88	90	87	64	66	56	49	

※ 2 つの学年の合計児童数が 16 人以下になると複式学級になります。
ただし、第 1 学年を含む場合は 8 人以下です。

2 小学校の小規模化と複式学級の進行

小規模校のメリット・デメリットについて、文部科学省資料（抜粋）には次表のように示されています。現在、各小学校では小規模校のメリットを最大限に生かす取組を積極的に進めています。

一方、複式化が進行すると新たな課題も生じてきます。例えば、

- ①直接指導してもらえない学習の時間が生じるため、児童に特別の訓練や慣れが必要となる
- ②実験・観察など、長時間の直接指導が必要となる場合、一方の学年の活動に制約が生じるなどです。



	小規模校のメリット	小規模校のデメリット
学 習 面	・児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 ・学校行事やクラブ活動等において、児童一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。	・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ・集団教育活動に制約や、習熟度別学習、専科教員による指導などの多様な学習・指導形態を取りにくい。
生 活 面	・児童相互の人間関係が深まりやすい。 ・異学年間の交流が生まれやすい。	・人間関係や児童相互の評価等が固定化しやすい。 ・組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。
そ の 他	・保護者や地域社会との連携が図りやすい。	・P T A 活動等において保護者の負担が大きくなりやすい。

3 教育委員会としての取組



教育委員会では、児童数の減少を踏まえ、保護者や地域の関係者と一緒に小学校の将来像を真剣に考えなければならない状況にあると考えています。

今後も必要な情報提供に努めるとともに、複式化の進行にそなえ、内在する課題は課題として認識し、その対応に向け、該当校への町独自の教員配置による必要な教科の単独学級指導の実施等、デメリットを克服し、子どもたちのより良い学習条件の確保に向けたあらゆる支援策を検討していきます。